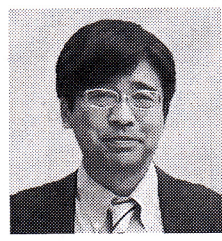


米大統領選 予備

「改革派・変化」か「守旧派・安定」か

2016年大統領選挙の予備選挙で、不動産王のドナルド・トランプが共和党候補として名乗りをあげたとき、話題性たっぷりの泡沫候補であり、大統領になる可能性など微塵もないと誰もが思っていた。だが今や、共和党で最も大統領に近いポジションにつけ、トランプ旋風が全米中に巻き起こっている。



拓殖大学海外事情 研究所所長・教授 川上高司

共和党保守派の重鎮たちは、まさかの事態に真っ青になりトランプの共和党候補者阻止に走っているが、それを尻目にトランプの支持者は日増しに増え続け、その流れは止められない。

おまけに、かつてトランプの足を揺るがした黒人の元神経外科医のベン・カーソンまでがトランプへの支持を表明したことで、キリスト教保守派や黒人からの票も取り入れる可能性がでてきた。

共和党内部はいま真つ二つに割れている。ここワシントンのシンクタンクでも研究者の間でも「トランプが共和党の大統領候補になった場合は協力しない」という誓約書が出回っている。ここでの動きは面白い。

トランプが大統領になった瞬間には、アメリカを破壊するから絶対阻止するとしてサインする研究者と、いやいや、トランプが乱闘をしないためにもトランプに助言をすべきだからサインしない、とする研究者に分かれている。それだけトランプの大統領への道が近づいているということだ。この大統領選挙にお

ける異常事態を分析する声は多いが、実はアメリカにとって初めてのことではない。2007年、イリノイ州の上院議員であったバラク・オバマが注目を集めた当初、誰も黒人である彼が大統領になるなどとは思っていませんでした。

投票で不可能を可能にできる

もしなかった。アメリカの歴史においてそれは不可能だったからだ。だが、08年にその歴史をひっくり返すような大統領選挙を実現したのはアメリカ国民であった。彼らは投票によって自らの歴史を塗り替えた。その実績が今

クリントンを脅かす超リベラル派のサンダース候補への支持は圧倒的に若者だ。さらにバーニー・サンダース支持層は政党幹部への不満が鬱積する。サンダースは、大学の授業料の無償化、格差是正、選挙資金改革、移民制度改革、気候変動などを訴え、その既存のシステムの外に位置し変革をもたらすと期待され、若者に圧倒的な人気を得ている。サンダース候補に想定外の苦戦をクリントン

支持は、若年層で超リベラルの傾向が強い。共和党の有権者内でのトランプの支持層は、保守の強い南部からリベラル色の強い東部、ハワイに至る。年代を見れば、40代以降で穏健な保守から中道派、女性より男性の支持が高い傾向にある。彼に期待されているのは、大統領としてのふさわしさを経験よりも「型破りな言動」である。アメリカの国民が言えないことをスバズバ話す。「イスラム教

徒のアメリカ入国を禁止すべきだ」、「メキシコからの不法移民を防ぐため、国境に壁を築くべきだ」といったような過激な発言をするが、その後の世論調査では支持率が伸びている。これまでにないような世論動向だ。

アメリカでは富の大半、総所得の50・4%を、上位10%のエスタブリッシュメントが占め、彼らがアメリカの政治や経済を牛耳っている。したがって、残りの一般庶民は政治や経済格差の壁を乗り越えられず、既存の社会システムや政府のあり方に対して不満を鬱積させているのである。

この壁を破ってくれているのは、既存の議員たちではなく政治経験のない民間人であるトランプであり、非主流派議員であるサンダースということになる。彼らはエリート階級に属さないアウトサイダーであり、エリートの壁をぶち破ってくれるだろうとその夢を託す。3月15日のミニ・スパーチュースデーを控え、民主党ではクリントンがサンダースを抑え、どうやらクリントンが民主党の候補者

トランプを阻止する手段はないのか。トランプを阻止する可能性のある共和党の候補は、2番手につけるテッド・クルーズである。共和党エスタブリッシュメントの間ではクルーズの評判はさぞ悪いが「トランプよりはまし」という究極の選択でクルーズを全面的に支援する。有権者がトランプを支持すればするほど、共和党エスタブリッシュメントが必死になつてクルーズを支持するという奇妙な乖離現象が深まってきている。7月の全国大会で両党の候補者が決まる。ここでは型破りなトランプとエリートのクリントンが残るのか。そこで大統領選挙の焦点は「改革派」対「守旧派」の戦いとなるであろうし、「変化」対「安定」の争いともなろう。アメリカは自由と変革の国である。アメリカの変化を見ることは世界の变化につながる。すべては大統領選挙次第だ。